【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】令和4年3月8日(2022.3.8)

【国際公開番号】WO2021/157135
【出願番号】特願2021-575609(P2021-575609)
【国際特許分類】
Ｃ０４Ｂ 37/00(2006.01)
Ｈ０１Ｓ 3/16(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０４Ｂ 37/00 Ｚ
Ｈ０１Ｓ 3/16

【手続補正書】
【提出日】令和3年10月14日(2021.10.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
レーザーアプリケーションに使用されるＹＡＧセラミックス接合体であって、レーザー媒質としてのＹＡＧセラミックスと、光吸収層としてのＹＡＧセラミックス又は光学ガラスとを接合し、レーザー媒質の周囲にある光吸収層より励起光を導入し、励起光の入射方向に対して垂直方向にレーザー媒質からレーザーを出力するＹＡＧセラミックス接合体であって、前記レーザー媒質と前記光吸収層とを接合するための接合層としてのガラスを備え、透過率の変化率が７％以内であることを特徴とするＹＡＧセラミックス接合体。
【請求項２】
接合層としてのガラスは、波長６５０ｎｍの光に対する屈折率が１．７１～１．９１であることを特徴とする請求項１に記載のＹＡＧセラミックス接合体。
【請求項３】
ＹＡＧセラミックスとＹＡＧセラミックスとを接合したＹＡＧセラミックス接合体は、Ｙｂ：ＹＡＧとＹｂ：ＹＡＧ、Ｎｄ：ＹＡＧとＮｄ：ＹＡＧ、Ｙｂ：ＹＡＧとＣｒ：ＹＡＧ、Ｙｂ：ＹＡＧとＳｍ：ＹＡＧ、とを接合したことを特徴とする請求項１又は２に記載のＹＡＧセラミックス接合体。
【請求項４】
光学ガラスは、波長６５０ｎｍの光に対する屈折率が１．７１～１．９１であり、熱膨張率が７～９ｐｐｍ／Ｋであることを特徴とする請求項１又は２に記載のＹＡＧセラミックス接合体。
【請求項５】
請求項１～４のいずれか一項に記載のＹＡＧセラミックス接合体の製造方法であって、一方のＹＡＧセラミックスの表面に溶融したガラスをコーティングした後、そのガラスをコーティングした表面に、他方のＹＡＧセラミックス又は光学ガラスを張り合わせ、その後、冷却することを特徴とするＹＡＧセラミックス接合体の製造方法。